



同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06(6607) 8 3 7 3

FAX 06(6605) 2 7 6 9

発行人 湊 勝比古



惣口良二 作

《 目 次 》

表紙絵(京都・洛西光明寺)..... 1	学科の近況・クラスだより(知的材料).....12
湊会長・山田名誉会長の挨拶..... 2	〃　　　　　　　(環境都市).....13
平成15年定年恩師の寄稿..... 3	同窓会連合会からのお知らせ.....13
学科の近況・クラスだより(機械)..... 4	平成15年工学部卒業生名簿.....14
〃　　　　　(電気)..... 5	平成15年工学研究科修了生名簿.....15
〃　　　　　(応化)..... 6	平成15年工学部入学生名簿.....16
〃　　　　　(建築)..... 7	平成15年工学研究科入学生名簿.....17
〃　　　　　(土木)..... 8	2003年版名簿の特別頒布のお知らせ.....17
〃　　　　　(応物)..... 9	工学部同窓会事務局年報.....18
〃　　　　　(情報).....10	平成16年評議員会・電話帳・後記.....19
〃　　　　　(生応化).....11	平成16年“工学部同窓会の集い”案内.....20

ごあいさつ

会長 湊 勝比古



工学部同窓会員の皆様方には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

今年の2月に同窓会長をお引き受けいたしました。微力ではございますが、同窓会の発展と母校の発展のため頑張ってお参りたいと思っておりますので、皆様方

のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

さて、最近の世の中、理解に苦しむような、また物騒な事柄、事件が続いています。世界ではイラク問題、北朝鮮問題等、国内ではかけ声だけで目に見えてこない構造改革・景気対策、ひつついたり離れたり混迷を極める政治、何故?というような殺伐とした殺人事件の多発等々。言葉では表しにくい不安が社会的にも、経済的にも広がっています。何かを変えなければならないという漠然とした思いをみんなが感じているように思います。

そんな中で、何かに火がつくと大合唱が起きて、小さな声が消されてしまうことが往々にしてあります。大合唱はマスコミを通じて伝わるので、いかにも全体が同じ意見のように感じさせられてしまうことがよくあります。バブル時代の影響かもしれませんが、どうも我々はゆとりというか、立ち止まって考えることがあまり得意でないように思います。一斉に一つの方向に走るとき、「待てよ」と考えたり、少数派の意見に耳を傾ける癖をつける必要があるのではないのでしょうか？

いろんな事に関心を持ち、「ちょっと待てよ」の気持ちで先輩、同僚、友達と議論をしたいものです。最近ではコミュニケーション不足の時代といわれています。このような変動の時代には何よりも必要なのはコミュニケーションではないでしょうか。仕事第一もよいでしょうが、同窓会や、遊びにもおおいに参加し、お互いに色々な情報交換を行うなど、コミュニケーションづくりを行うことが我々技術者としての感性を磨くことになるのではないのでしょうか。

(土木・昭和41年卒・(株)大阪港トランスポートシステム取締役社長)

工学研究科・工学部の近況

名誉会長 山田 文一郎



社会の変化が早く流動的な傾向は、昨年今年も変わらないともいえます。

工学研究科の再編については既に紹介しましたが、昨年11月に「大阪市立大学大学院工学研究科 研究内容一覧」として教員の研究紹介の冊子を作成しました。

各人の研究を考え方を含め1ページに記

述しており、全学の研究者データベース共々ご活用頂けると思っています(ご希望の場合は、同窓会へご連絡下さい)。さらに、奇数月には「オープンラボラトリー」と名づけ大きなテーマでくる講演会を大阪産業創造館(www.sansokan.jp)で行っています。学外の方々に研究の意図と成果を伝え、教員にとっては多くの方々からご意見・批判を頂ける機会と考えています。

学部教育では、10学科発足を機会にカリキュラムの見直しや整備を進めてきました。さらに、日本工業技術者認定機構(JABEE)の専門認定を受ける準備を教育改革と位置づけ進めています。教育内容ばかりでなく教育の方法についても詳細な要求があり、各学科で工夫し教育体制の一層の整備を目指しています。その結果、学生諸君が工学部で学ぶ手ごたえをこれまで以上に感じてくれるものと期待しています。

全学的な新しい研究体制も発足しており、研究推進本部のもとに重点研究(拠点を形成する卓越した研究)、都市問題研究(都市が抱える問題に関連した研究)および新産業創生研究(大学と企業が共同し新産業を生み出す研究)がスタートしています。工学研究科からはいずれにも応募していますが、特に、新産業創生研究では重要な役割を果たすべきであると考えています。今後、本学の研究体制としてこれらが社会的にも信頼が得られることを願っています。

大学の法人化は、市大でも大きな関心事です。国立大学の法人化は平成16年4月に一斉にスタートし、公立大学は早くも1年遅れの平成17年4月からです。いくつかの公立大学では、大学にとっては非常に厳しい設置者主導の法人化案が示されています。本学では、大学が法人化の基本案を作りそれをもとに設置者である大阪市との協議に入るよう市長から指示が出ており、この方針で進むための議論を続けています。

このように、工学研究科・工学部はいろいろなことに積極的に取り組んでいます。同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、工学研究科・工学部へのご理解とご支援を御願致します。

(大学院工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授)

表紙絵作者の略歴

1926年：大阪市大正区生れ。

1947年：大阪市都島工業専門学校土木工学科卒業。

運輸省第三港湾建設局・第四港湾建設局、大成建設(株)、第一建設設計(株)に勤務。

表紙絵「洛西光明寺」は、平成6年4月開催の第21回こうべ市民美術展におけるご入選作。

★同窓会報の表紙絵をご投稿下さい。

現在、第20号会報(2004年版)に掲載する表紙絵を募集していますので、奮ってご応募下さい。

大阪市立大学における 産学官連携の取り組みについて

「環境都市」ツアー

大阪市立大学新産業創生研究センターセンター長 福田 武人



工学部同窓会会員の皆様にはお変わりございませんか？小職は、1968年から本工学部に奉職して以来、35年の長きにわたりお世話になり、本年3月に定年退職いたしました。その後、6月から新産業創生研究センター準備室長として研究センターの立ち上げ準備をして参りましたが、この10月に研究センターがオープンし、現在センター長を務めております。当研究センターは、全学を横断する研究組織で、大阪市立大学の特徴を活かし、産学官の共同研究を積極的に展開していくことを主たる目的としております。その中で環境・都市、エネルギー、ナノマテリアル・バイオ、ロボット・ITおよび健康・予防医療の研究領域を設け、各研究領域において本学教員と提携企業とにより共同研究プロジェクトを進めて参ります。これらの研究成果が近い将来、新しい技術や産業を創出し、ひいては地域社会の発展に貢献できるものと期待しております。因みに、本年度スタートしました共同開発プロジェクト3件の中で工学部教員によって進められているプロジェクトとして、「循環型社会に向けたエコジェネレーションシステムの構築」（機械物理系専攻野邑奉弘教授）があります。他のプロジェクト2件は理学研究科と医学研究科の教員によってそれぞれ進められております。

以前この欄でも書かせていただきましたが、本学では、1998年10月に産学官連携促進委員会を立ち上げ、2000年7月に財団法人大阪市立大学後援会に研究交流相談室（昨年より産学連携推進室と改称；室長西村仁元工学部長）を設け、学外との研究協力体制を整えつつあります。昨今ようやく明るさが見えてきたとはいえまだまだ経済情勢が厳しい中、本学も新産業創生研究センターを中軸にして、本格的に学内シーズを結集して産業界の協力を得て経済活性化に寄与していきたいと考えております。このためには産業界で活躍しておられる卒業生の皆様にぜひご支援していただきたいのです。このようなことから、卒業生の中で現在企業経営者である株式会社小松製作所（コマツ）代表取締役社長兼CEOの坂根正弘氏（1963年機械工学科卒業）と富士重工株式会社代表取締役社長の竹中恭二氏（1969年機械工学科卒業）のお二人に9月はじめにお会いして本学の産学連携の取り組みについてお話をさせていただき、また産業界の状況などを聞かせていただいたりし交流を図っております。また前記センターでは産学連携プロデューサーとして、1964年工学部応用化学科卒業の三刀基郷氏にもご協力をいただいております。

このように、本学も遅ればせながら、組織的に産学連携に取り組んでおりますので、とくに工学部卒業の皆様方にぜひご支援をいただきますようお願いいたします。最後になりましたが、工学部同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしております。（元工学研究科長・知的材料工学科教授）

大東文化大学環境創造学部教授 土井 幸平



ご無沙汰しています。みなさまお元気でしょうか？私の近況をお届けします。

この9月に屋久島登山に挑戦しました。「縄文杉に会いたい」というガイドさん付きのツアーを利用しました。早朝4時起床ホテル前集合です。夜明け2時間前の空はテレビ《まんてん》の星空でした。

ガイドさんのワゴンカーに乗り合って車で行ける荒川登山口まで1時間、ここで標高600メートル、登山客が集結してきました。おにぎりの朝食を済ませて標高1500メートルの縄文杉までいよいよトレッキングです。最初の3時間、今は使っていないトロッコ道を歩きます。その昔林業人が住んでいた集落跡、小学校跡を通過します。翁杉、夫婦杉、大王杉などの名前の付いた屋久杉を散見しつつ中継点「大株歩道入り口」で休憩、ここから急傾斜地の森をジグザグ登山です。森の中は宮崎駿監督《もののけ姫》の世界です。年間5000ミリを越えるといわれる降雨に育てられた様々な種類の苔が地表の岩、木の根っこ、幹に群生し、そこから屋久杉が踏ん張って立ち上がり、その屋久杉には苔の他にナナカマド、コナラ、カエデ、ツタなどの植物が着生し、ファミリーを形成しているのです。地表には木漏れ日。途中のなんとも美味しい沢の水でのどを潤しつつ小休憩を挟んで3時間半、比高600メートル登ったところに樹齢7200年ともいわれるあの縄文杉が。なんとも圧巻の姿に感動しました。

がしかし私は、帰路のことが心配でもありました。既に足は棒、膝はガクガク。帰路見かけたバンビのようなヤクシカ、ニホンザルより小振りのヤクザルに疲れを癒されつつ、同行の若者達に取り残されそうになりながら、5時間半かけて夕暮れの登山口にたどり着きました。実はまだ心配でした。翌日ちゃんと歩けるだろうか。手すりに掴まってやっと階段を上る状態の日がしばらく続きましたが、屋久島登山は人生の体力に少し自信を与えてくれました。鹿児島の方は、屋久島は1週間に10日雨が降るといいますが、天候に恵まれたのがラッキーでした。

屋久島は世界遺産に登録されて以来、観光客が増えつつありゴミや乱開発の問題を心配して島ぐるみでゼロエミッション運動に取り組んでいます。「環境都市」を目指しているのです。私は今、大東文化大学環境創造学部で教えていますが、この夏九州縦断「環境都市」ツアーを企画し、学生達と研修旅行したのでした。屋久島訪問のあと、艱難辛苦からの再生をめざす環境都市水俣、エコタウン事業の雄・北九州市を訪問しました。「環境都市」ツアーは今後も続きます。

（元工学研究科・環境都市工学科教授）

機械工学科の近況

佐藤 嘉洋



同窓会の皆様にはご健勝にてご活躍のことと存じます。本年度機械工学科主任をさせて頂いております佐藤です。新米ですが、学科の皆様のご協力によりまして務めさせて頂いております。

現在、大学は大きな変革期にあり新聞紙上を賑せているのはご存知の通りです。

法人化および技術者教育認定制度（JABEE）への対応、定員削減および外部評価への対処、産学官連携の推進等どれ一つ採っても大浪ばかりで、ひとつ舵を切りそこなえば転覆するかもしれない程の課題が山積しております。この大事に機械工学科教職員・学生一丸となって立ち向かっていっている処です。

さて、本年度の人事異動についてご報告致します。4月1日付けで熱工学研究室の伊與田浩志助手が講師に昇任されました。材料強度工学研究室の川上洋司講師が生産加工工学研究室に移られました。「また、福田武人教授（元機械工学科所属）が3月31日に定年退職されました。」

本年3月の機械工学科卒業生は31名で就職7名、進学21名その他3名です。大学院工学研究科機械物理系専攻修士は30名で就職28名、進学2名です。同窓生諸氏のご活躍の賜により、ほとんどの学生が希望の職に就くことができました。学部学生の大学院への進学者は多くなりましたが、大学院前期博士課程（修士）から後期博士課程（博士）への進学者が少なく、大学院教育の活性化のために多くの学生が後期博士課程へ進学することを期待しております。また、4月には学部1年生33名、大学院前期博士課程1年生41名（知的材料工学科との合計）および後期博士課程1年生3名の新入生を迎えております。

また、下記の先生方が本年度顕彰されております。

東恒雄教授：日本機械学会流体工学部門の推薦により3月に日本機械学会フェローに認定されております。

西村伸也助教授、野邑奉弘教授、伊與田浩志講師：5月に第30回日本冷凍空調学会賞学術賞を受賞されております。

西村伸也助教授：6月に第14回日本機械学会環境工学部門賞研究業績賞を受賞されております。

最後になりましたが、同窓会会員の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げますとともに、これまでも増して一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（工学研究科教授兼機械工学科主任教授）

で、出席人数の確認、予約の手間など幹事のご苦労が大変だったと思いますが、近年はどこの店もほとんど営業している状態なので気楽に集まれると思います。

四十を過ぎてもロケット広場に集まれるのかな？との心配もありましたが、過ぎてしまえば何のその。オジタリアンよろしく若い人の中に混じってます。きっと五十の坂もこの調子でしょう。

ということで、ご縁のあった他学科同期の方々などご遠慮なくコンタクトしてきてください。きっと毎年冒頭の場所でするんでいます。（機械・昭和59年卒・工学研究科・助教授）

我が同期

中芝 明雄



昭和39年、機械工学科に入学し杉本町の教養部での私達は、時がかの学生運動前夜でもありキャンパスはアジビラと拡声のため、およそ閑静な学び舎と言うには程遠い雰囲気でもあった。このような環境にあつて、私達同期全員は勉学の傍ら体育・文化のクラブ活動やアルバイトに勤しんでいた。当時は科目のほとんどが必須で一科目不可は仮進、二科目不可は進級不可と言う厳しいものであったこともあり同期の協調性は自然と育まれていった。例えば、夏季休暇の課題の機械設計製図科目は設計書数十枚、設計図は組立図（Aゼロ用紙）を始め30枚超と言う、現在の大学のカリキュラムと比較すると激烈なもので、お互いの下宿などで共同で検討したものである。学部では、短期間ではあったが都島学舎で過ごし杉本町新学舎に戻ってからも、大学祭ですら実験の途中で作業服のまま共にキャンパスを闊歩したものである。惜しくも若くして急逝した一人と不明二名を除いては皆健在ではあるが、ここ1～2年で還暦を迎える歳になってしまった。同期会は数年前に7割方の参加で大阪にて行った後は定例には持っておらず、地域や仕事で気の向いた同士が集まって随時旧交を暖めている。今後は還暦を期に年数回程度の集まりを持って日本の技術開発や教育の在り方等の議論やゴルフ等を出来ればと思っている。

（機械・昭和43年卒・KRI社長）

ロケット広場にて

瀧山 武



年も押し迫る12月30日18:00なんばロケット広場。待ち合わせ顔でたずむ人の間に、いくつかの小さな輪があちらこちらにできている。我々昭和59年機械工学科卒（正確には昭和55年入学生一同）のメンバーもその輪の中のひとつとして、内藤昌宏名幹事（三洋電機）の世話のもとに卒業以来毎年集い、28名卒業中10名前後の参加だが皆勤賞も多いようです。

毎年会っているようでも、後厄も過ぎようとすると頭も白くなったり薄くなったりいろいろ風貌も変化し、また、在職20有余年のベテランともなると仕事上の難しい話もあるが、出会った瞬間に、設計製図や応用研究（卒研）などでの数多くの泊り込みや助け合い、たくさんのお金をやったあの当時にすぐに戻れてしまうと感じるのは私だけではないと思います。

卒業後はマージャン仲間、テニス仲間、ゴルフ仲間などローカルで時々集まっているようだが、公式行事は一つもなく、そのうち家族同伴で開催したいねと話しながら、やはり年に一度は仕事抜き、妻子抜きで会えるという気楽さのほう打ち勝っているのかもしれない。

卒業後数年は、大晦日前に営業している店を探すのが大変
〔左段の下部へつづく〕

電気工学科の近況

松下 賢二



今年は残暑が厳しく10月になってやっと秋らしい気配が感じられる今日この頃ですが、卒業生の皆様方がお過ごしでしょうか。まず始めに慶ばしいニュースとして、本年、春の叙勲において名誉教授の安藤慶一先生が「勲3等旭日中綬章」叙勲の荣誉に浴されました。安藤先生は現在ますますお元気でご活躍です。教員の異動についてですが、今年3月に永年にわたり電気工学科を支えてこられた志水先生と前川先生が定年で退職されました。1年間カリフォルニア大学で研究活動をされていた宮崎先生が帰ってこられ、現在電気工学科は電磁気学分野（鈴木、南、武智）電子回路学分野（高橋、重田）材料計測工学分野（青笹、草間、田中）光電子工学分野（松下、中川、宮崎）電磁機器工学分野（辻本、村治）の13名で教育研究を進めています。学生数は現在1回生32名、2回生33名、3回生38名、4回生34名となっています。教員の数が少なくなり、一人ひとりの負担が増えていますが、現在は電気主任技術者の資格のための授業科目を何とかクリアしています。教育の質を保つJABEEへの対応、さらには法人化問題など先を見通すには少し変化が激しすぎるような気がしています。

8月に行われた前期博士課程の入学試験では電子情報系として53名が合格し、そのうち20名が電気工学講座に配属予定です。

就職に関しては今年は例年にもまして厳しい状況になっており、4回生の何人かはまだ就職先が決まっていません。多くの卒業生の方にリクレータとしてお越しいただきましたが、学生諸氏の希望とマッチングがとれずご期待に沿えない場合が多くあり申し訳なく思っています。また、学生諸君の希望が多様化してきたこと、学校推薦の質も多少変わってきたことなどもあり、自由応募で受験する学生も次第に増えてきています。卒業生の皆様方のお力添えよろしくお願い致します。

法人化への方向が具体化するにつれ同窓会の皆さまには就職関係だけでなく、いろいろな面でご協力とご支援をお願いすることになると思っています。今後ともよろしくお願い致します。
(工学研究科教授兼電気工学科主任教授)

昭和35年度入学の機械・電気合同同窓会

高橋 晴雄

昭和35年入学の機械(27名)・電気(26名)は、還暦を過ぎ定年を迎えたものも多くなり、平成14年1月に30年ぶりに合同の同窓会を開催しました。機械23名、電気13名の出席で、最初は顔も名前も思い出せず、自己紹介から始まりましたが、すぐに学生時代にタイムスリップして、わいわいがやがやで、最後は肩を組んで逍遙歌を歌いました。そのとき、2年に1回は合同で同窓会をしようと決まりましたが、ゴルフの話が出て、「39ME会」と名づけ、年2回の割合でコンペをすることになりました。第1回39ME会[平成14年4月(7名)]、第2回39ME会[平成14年11月(12名)]でしたが、3回目から一泊2日で前日にゴルフをしない人も交えた宴会



もすることになり、第3回39ME会[平成15年5月(11名)]、第4回39ME会[平成15年10月(7名)]で、それぞれ、4~5名の宴会のみの参加もありました。平成16年には、一泊2日の合同同窓会(前日は宴会、当日はゴルフ組と観光組に分かれて行動)を開催する予定で準備を進めています。我が同窓会は、ゴルフをしない人もゴルフをする人も悠々自適の人生で掛け替えのない楽しみになっています。

(電気・昭和39年卒・財奈良県中小企業支援センター)

年3回の電気の会

中川 照也

昭和62年、バブルがどんどん膨らむ頃。企業が内定者の囲い込みの為に旅行まで学生を連れて行く時期に、ろくに就職活動もせずそれぞれが就職して早16年が経ちました。卒業後も盆暮れとGWの年3回、誰が命名するともなく「電気の会」と称して、もちまわりの幹事で例会を開いて旧交を温めております。

当初は酒量もそこそこ多く、喫茶店の2次会で酔いを醒ましてから散会することも度々ありましたが、いつしか上品に酒を楽しむ術を覚えたのか、それとも単に加齢を重ねたのか、最近はお互いが近況報告のボヤキと愚痴をひと通り吐露した後は、22時頃迄にはそれぞれ家路についております。

私は、卒業後すぐ浜松の電子楽器の工場で13年間勤めていたこともあって、浜松でも2回、メンバーを焼津や御前崎に連れて行ったり、大阪でも摂津峡でバーベキューや自宅で焼肉をするイロモノ幹事を何度かしましたが、いずれも忘れられない佳い思い出となっております。

東京や広島に住む関西以外のメンバーも集まってくる「電気の会」。生活環境や家族構成はこれからも変わっていくのかもしれませんが、さほど変わらないボヤキと愚痴をこれからもお互い楽しみにしながら何度も聞かされることになるのだろうと思います。
(電気・昭和62年卒・ローランド(株))



応用化学科の近況

小槻 勉



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、相変わらず変化の激しい時代ですが、本学の卒業生の皆様は恐らくこれを好機として活躍しておられることと存じます。

応用化学科の近況ですが、小澤文幸先生と片山博之先生が9月1日付けで京都大学に転出されました。また、セタルンドバルボー先生も同じく9月1日付けで神戸大学に転出されました。寂しくなりますが、各先生の新たな発展に向けての転出ですので化学生物系の教員全員で送別会を行いました。また、本年度から応用化学科ではJABEE認定に向けて動き始めました。このJABEEとは、Japan Accreditation Board for Engineering Educationの略称で大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準をみたしている教育プログラムを認定する専門認定（Professional Accreditation）です。その底流には、国際化や標準化の流れがあります。教員の負担は、一時的に少し増えますが、更に充実した教育プログラムを提供するために様々な工夫をしながら教育効果を検討しています。

昨年度の第18号「同窓会だより」でも紹介させて頂きましたが、応用化学科と生物応用化学科の教員全員が、大学院に所属して、化学生物系専攻を構成しています。専攻としての運営も徐々に円滑になってきており、社会人入学制度（4月と10月の2回）と学位（博士号）取得プログラムを更に充実させていますので、卒業生の皆さんからの相談を期待しています。

また、このような一連の教育・研究活動をより充実するためにスタッフの充実にも取り組んでいます。現在、高分子・材料化学分野、有機工業化学分野の教授（または助教授）の複数の公募を行い、来年度の「同窓会だより」を通じてより充実した陣容を紹介できるものと考えています。

このように応用化学科では教育・研究の両面で充実させ続けていますので、卒業生の皆様方には今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（工学研究科教授兼応用化学科主任教授）

昭和37年卒関東地区同期会

小野 寿雄

大阪市立大学理学部化学・応用微生物・工学部応用化学の37年卒業生（全部で40名）の関東地区同窓会を、平成15年11月8日に八重洲富士屋ホテルで開催しました。

出席者は全部で10名で、関西地区から内1名が参加してくれました。

10名の内、応用化学科は8名、化学科は2名で、応用微生物科の参加はありませんでした。参加者の殆どの人は定年を

迎えており、髪の毛が薄くなり、顔も寄る年波を如実に示していました。

このグループの関東地区の同窓会は、かなり前から年に1回程度開催されていますが、やはり暫くぶりに顔を合わせたために、懐かしそうに昔話やら近況を話していました。

来年も同じ時期、同じ場所で開こうということになりました。（応化・昭和37年卒）



とうとう還暦

山口 英昌



昭和41年3月卒業生は、入学時の定員23名だった。慶応の応用化学に進学した1人を除き22名が入学した。今思えばこじんまりした学科だった。

われわれは、4・5年に1回のペースで同窓会をひらいている。昨年は酒井氏の世話で12名の仲間があつまり、宗右衛門町でクジラをつついた。米国出張中や、遠方の友を除いて毎回ほぼこの程度の人数が集う。前々回は、山内氏の母校教授への昇格を祝って集まった。竣工間もなかった学術情報総合センターを会場にして山内氏に講演を頼んだ。最先端の研究を聞かせてもらったが、これも盛会だった。久々に杉本キャンパスを訪れた友もあって、学舎の充実ぶりが話題となったものだ。

メンバーは昨年、今年と次々に還暦を迎えている。未だ現役で海外勤務する友、第二の就職先で働く友、定年で悠々自適の友、道はさまざま。会えばおのずと、自らの今後や老親の話題になる。ある意味、変化の激しい、しかし面白い時を迎えている。第二の青春とも言えようか。

今年は阪神が優勝したが、85年の優勝時には、理学部の化学科、生物学科と合同で集まったことを思い出す。実ににぎやかだった。当時はどの学科も少人数で、教養の授業を合同で受けていた縁だ。当時、「次回はまた阪神が優勝した年に」と再会を約したが、数年後のつもりがとうとう18年が経ってしまった。約束どおり3学科合同で集いたいものだ。

（応化・昭和41年卒・大学院生活科学研究科教授）

建築学科の状況

杉山 茂一



卒業生の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。昨年度に引き続き学科主任、本年度は都市系専攻の主任も兼任させていただいております。今年も建築会の総会(6/28)に出席、難波パークスを見学させていただきました。当プロジェクトでは市大建築学科卒業生の方々が中心的役割を担われたとのことで、誇らしく思いました。また、東京支部にもお呼びいただき、汐留見学(9/13)の機会をもたせていただきました。ありがとうございました。

今年度は都市系専攻発足2年目で、大学院入試、修士論文発表会など新しい体制での諸行事を一通りこなしましたが、その都度、旧土木と旧建築のこれまでのやり方の違いに気づき、そのすり合わせの議論を重ねてきました。その成果の一つとして、修士論文の梗概をホームページに掲載するようになりましたので、ご覧ください。また、この数年で社会人ドクターも定着し、毎年、数人の方が博士論文をまとめるようになりました。ご希望の方がありましたら、遠慮なくお問合せください。歓迎いたします。

大学改革への取り組みは引き続いて行われています。COEについては、都市系専攻関連のものは残念ながら採択されませんでした。提案にいたるプロセスで行われた議論は無駄ではなかったように思われます。JABEEは、平成17年度実施に向けて準備が具体化しています。独立法人化についても、その内容が徐々に具体化しつつあり、現実味が増してきました。

大学改革への取り組みは引き続いて行われています。COEについては、都市系専攻関連のものは残念ながら採択されませんでした。提案にいたるプロセスで行われた議論は無駄ではなかったように思われます。JABEEは、平成17年度実施に向けて準備が具体化しています。独立法人化についても、その内容が徐々に具体化しつつあり、現実味が増してきました。

この1年間の教員の異動は2件です。4月に建築環境工学分野の梅宮典子講師が助教授に昇任しました。9月には建築デザイン分野の難波和彦教授が東京大学に転出し、現在、その後任人事を進めているところです。

学生の進路は、学部卒業予定者28名のうち、大学院進学16名、就職内定5名。就職先内訳は不動産業2名、ゼネコン、住宅メーカー各1名、その他1名。大学院前期博士課程は修了予定者23名のうち就職内定17名。就職先内訳はゼネコン6名、住宅メーカー4名、材料メーカー3名、公務員3名、設備会社1名。学生の就職活動にあたっては、卒業生の皆様のお力添えをいただきありがとうございました。10月末現在で未定者が13名ですが、その多くは公務員試験受験中か設計事務所希望です。設計希望の学生への対応が課題です。

(工学研究科教授兼建築学科主任教授)

建築学科第13期同期会

藤江 康男



私達が卒業した時は日本が高度成長時代に入る端緒であり、大阪市も三百万人の人口となり、産業界も大変活発でありました。その一方では深刻な公害問題、特に煙の都と言われて、昔のロンドンみたいだった事を記憶しております。

同期の人は大変忙しく一同になかなか

集まりにくかったのも事実ですが、誰彼となく同窓会を開こうという事になり、卒業後20年目の節目に先生もお呼びして開催しました。

25年目には土木学科との合同の同窓会を開催したところ、多くの出席が有り、大変懐かしく喜んで戴きました。その後、同期では既に4人が亡くなりましたが、殆どが定年退職等になり、私の一存で「還暦の同窓会」と名付け、大阪市を定年退職した平成13年に第二の就職先として、勤めております「海遊館」のビッブルームで開いたところ、

「大水槽の魚を見ながら食事が出来る」と言う事で、遠く四国・東京から殆どが集まり、大変盛況に開催できました。幹事として大変思い出深いものになりました。その時、皆で「同窓会基金」を創設し、管理を幹事の私に任されております。

今後は、市大建築会へ参加の勧誘や同窓会の開催を出来るだけ長く続けたいと思っております。この原稿の締め切り前にも関西在住の同窓会を開き、皆健康で頑張っている事をお互いに確認しました。

(建築・昭和40年卒・大阪ウォーターフロント開発(株))



秋歩人会のこと

長谷部 資朗

私達は、世代的には団塊世代のしっぽにあたり、世代としてのアイデンティティーを欠いた中途半端な存在であり、その大学生活も、大学紛争の盛りを過ぎたものの、その余波が依然と残る、雑然かつ退廃の空気の中でのスタートでした。

教育課程では、旧家政学部の住居学科等との合ハイを唯一の楽しみとする、普通の学生生活を送っていましたが、専門課程にはいると、生活は激変し、まず寝袋を買い込み、多くの者が製図室に寝泊まりする一種寮生活の時代となりました。缶詰状態の日々でデートも出来ず、鬱々とした気分を払拭するため、クリスマス8mm上映会、卓球大会などを深夜に教室で開催し、ひんしゅくを買ったこともありました。



[P 8 上部へつづく]

こうした生活の中で団結を固めた昭和46年入学グループが「秋歩人会」（あきてくとかい）です。当会の活動は通常、市大ボート祭・市民レガッタ・ハイキング・忘年会の年4回と充実しています。

近年の集まりでは、子育ての話題は概ね終了し、(リストラを中心とした)業界話・健康・頭髮・ギャル(を横目で眺

める話)など、暗い話をなぜか元気に生き生きと語り合っています。

「中途半端こそ我々のアイデンティティー」と居直りつつ、今後も「気分だけは青年」で、しぶとく頑張っていきます。

(建築・昭和46年入学、奈良県庁)

土木工学科

土木工学科の近況

土木工学科主任 日野 泰雄



土木工学科は、建築・環境都市ともども都市系専攻構成講座であり、構造工学、橋梁工学、土木材料及び河海工学、土木計画学、地盤工学の5研究室(6分野)で構成されています。

近年、「土木」に対する誤解等によって、益々敬遠されがちであるため、正しい理解がえられるように学科名の変更に向けた取り組みも進めてきました。既に多数の大学で名称が変更されており、遅れをとった感はありませんが、今がラストチャンスと判断しました。平成17年度から新たな名称でお目見えする予定ですので、益々のご支援をお願い致します。

今年の新入生は、学部生32名(女性3名)、前期博士課程(土木系)28名(女性6名、土木工学講座所属18名(女性3名)、後期博士課程(土木系)7名(社会人4名(10月入学2名))です。近年の大学院充実に対応して、社会人の方々の入学が定着してきました。学部新入生については、「土木」の何たるかを理解してもらうことに力を注いでいます。例えば、「土木工学総論演習」で、現場や実物に触れるための見学会やゼミ形式の授業等を導入しています。また、昨年度からは「シビルの日」という企画を始めています。

一方、就職ですが、①民営化論議の煽りで公団関係の求人がなかった、②建設関連企業の求人数に対して学生の希望が少なかった、③コンサルタント希望が多いものの、フリーエントリー制により主任が十分対応できなかった、④公務員希望が多いものの依然難関であった、⑤大学院入試の不合格者が多かったこと等々、上手くいかないものだと痛感しました。

現段階で、学部卒業予定者30名(女性2名)の内、建設会社等民間企業7名、公務員2名、他大学(4名)を含む進学12名(女性2名)、未定9名です。前期博士課程(土木系)修了予定者は30名(女性3名)で、建設3名、コンサルタント6名(女性1名)、鉄道2名、鉄鋼・材料3名(女性1名)、公務員9名(地方6名、国3名(女性1名(I種)))、進学2名(留学1名)で、未定者は5名です。計14名の進路を懸念している所です。

今大学は、法人化、行財政改革、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定、大学改革の一環としてのFD活動(Faculty Development: 大学教員の職業的資質向上のための取り組み)、等々外圧的变化の真只中にありますが、学科名の変更を含めて、土木離れを食い止め、より良い教育と研究環境を創出するため頑張っていますので、卒業生各位にも

より一層のお力添えをお願い致しまして、報告の結びとさせていただきます。(工学研究科教授兼土木工学科主任教授)

遠心模型実験40周年・地盤研半世紀記念祝賀会の報告

岸本 好弘



本年が土木工学科地盤工学研究室で遠心模型実験を始めて40周年になること、また創設以来研究室が半世紀を超えたことを祝して、さる9月19日、天王寺都ホテルにおいて、教職員をはじめ卒業生、修了生、研修生、共同研究者の方々など139名の参加者のもと盛大に祝賀会が行

われました。

当日は、午前の研究室見学から始まり、15時からは、都ホテルで講演会そして祝賀会となりました。講演会では、三笠名誉教授より「40年前を振り返って」と題してのお話、引き続き、高田教授、東田助教授よりそれぞれ「遠心模型実験の歴史」、「その意義と展望」と題しての講演があり、かつての旧扇町校舎や1号機(Mark 1)などなつかしく思い出されました。その後、18時より祝賀会となり、望月教授(S42年卒、旧教員)の発声による乾杯でにぎやかな懇談に入り、間に卒業生のスピーチをはさむ趣向で盛り上がりしました。



また、三笠先生の傘寿の祝いでは、木下さん(旧教員)による詩吟の披露、先生ご自身のピアノ演奏、さらにプレゼント(お名前と傘寿にちなんで番傘)の贈呈などがあり、祝賀会は最高に盛り上がりしました。盛会のうちにお開きになり、全員万歳一唱の後、一列に並んで端から順に握手をしあいながらお別れするといった趣向で、別れ難く延々と握手が続いたのであります。誰からともなくまた集まろうと語り合いながら散会しました。

終わりに、この企画いっさいを取り仕切っていただいた東田、大島両先生に厚くお礼を申し上げて報告といたします。

[P 9 左上へつづく]

追伸、遠心装置を使わしていただいたトップバッターとして小生が報告いたしました。

(土木・昭和40年卒・神戸高速鉄道)

土木会・同窓会in徳島2003

吉村 洋



金木犀が香り、街路樹の木々も色づき始めた9月の秋、土木学会平成15年度全国大会が徳島大学をメイン会場として開催されました。この機会に奥田良彦さん(S39年卒)、望月秋利先生(S42年卒、旧教員)の呼びかけで、「土木会・同窓会in徳島2003」が9月24日(休)、ホテルクレメント徳島の最上階において行われました。主に四国地区で活躍されておられる卒業生の方々や現教員・学生を合わせ、34名が集まり、多いに盛り上がった宴でした。奥田さんによる開会の辞に始まり、日野主任教授による学科の状況の紹介、そして、中井博先生(S34年卒)のご発声で乾杯となりました。卒業生を含めた研究室ごとに一言ずつ報告を頂き、それぞれの研究室の個性(?)が如実に表れたように感じられました。



ホテルの最上階からの眺めも非常に素晴らしく、さらに、アルコールの程良い酔いも手伝って、旧交を温めたり、また新たな親睦が深まるなど、とても楽しく、とても有意義な時間になりました。最後には出席者全員が輪になって肩を組み、「桜花爛漫」の大合唱。そして、文野結紀さん(S40年卒)に閉会の辞を頂きました。

予定の終了時刻をオーバーするほど、充実した時間が、あっという間に過ぎていきました。

(土木・昭和63年卒・平成2年修・阿南工業高等専門学校)

応用物理学科

応用物理学科の近況

細田 誠



卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか。今年の学科主任を仰せつかりました電子物理工学分野の細田です。国立大学の独立行政法人化が来年度から実施されるように、大阪市立大学も独立行政法人化の流れが今後数年を経て予測されています。

応用物理学科においては、大阪市の10%人員削減により、来年度からは教員が12人体制になりますが、少規模ではありますが各研究者の特徴を存分に発揮した、光るもののある研究室にすべく、学生を含め、皆がんばっているところです。卒業生である皆さんも御存知のように、相変わらず応物の廊下は夜の12時をすぎても蛍光灯が赤々と灯っていますし、幾つかの研究室では朝まで電気が消えません。また、応用物理学科では工学部の他の学科と共にJABEE(日本技術者教育認定機構)による技術者教育の認定を来年度以降に取得する予定で準備を進めています。

大学院においては平成14年度からの大学院再編により、応用物理学科は電気工学科、情報工学科と合同した電子情報系専攻となり、来年度はその専攻で初めての前期博士課程(修士)の卒業生を送り出すことになっています。前期博士課程への進学者もこれまで同様、多くなっており、今年は応用物理学科からは卒業予定者である25名中、18名が合格しました。また電子情報系専攻としては全体で53名が進学予定となっています。

就職についてはここ2~3年、就職活動の開始時期が早ま

る状況にあり、新年明け早々から会社訪問を始めた学生もいました。また、自由応募での採用を行う企業が増えており、応募者の能力・適性を厳しく見極める傾向が顕著になりつつあります。企業からの求人件数はほぼ前年並でしたが、求人票が送られて来る時期は早まっており、これも早く優秀な人材を確保したいという企業側の意向の現れでしょうか。本年度は、前期博士課程修了予定者は19名で、就職内定者は18名(全員が自由応募)、後期博士課程への進学予定者は1名です。また、4回生の卒業予定者は25名で、就職内定者は6名(学校推薦:1名、自由応募:5名)です。最後になりましたが皆様の一層のご活躍、ご健康をお祈りいたします。

(工学研究科教授兼応用物理学科主任教授)

十数年振りの同窓会

小林 弘一



昭和34年応物卒は17名で、卒業後10年余りは毎年同窓会を開き、その後も10年程前まで2、3年に一度の割合で催してきた。その間一貫して幹事役だった西田君が、平成9年に惜しくも一番早く故人となってしまった。彼はシャープ在職中に弁理士の資格をとり、特許事務所を開業した努力家で、他人のためにも献身的に尽くした仏の様な人でした。

昨年、久し振りに集まろうと言う気運が高まり、彼と最も

[P10左上へつづく]



親しかった私が幹事をかって出たが、気が付くと彼の七回忌直前だったので、保坂君と彼のお宅を訪問し冥福を祈った。この時、彼から「お前代わりにやってくれよ」と言われたように思っている。

今回は11人の出席予定者の内4人が関東在住だったので、淡路島の朝日放送寮での“一泊同窓会”にした。歩行困難な保坂君も車椅子で夫人同伴で出席してくれた。その晩餐では、先ず故三戸・川村両恩師と故西田君に黙祷、そして乾杯の後一杯気分一人ずつの近況報告。10年ぶりの会合とて話題は私事からサイエンス迄広範に及び、サイエンス好き同志の質疑応答で議論が白熱し、日付が変更するまで続いた。

(応物・昭和34年卒・明石工専非常勤講師)

応物三八会便り

田守 芳勝



2、3年に一度全員集合の声が掛かり、20人の同期の内、12、3人が集まっているが、今後は永らくお世話になった奥様もいれて集まろうということになり正月頃から準備を始めていたが山田康吉幹事の下、5月24日13時に京都駅八条口に集まった。初めての試みでもあり、夫婦連

れだって集まったのが、山口、山崎、山田進、鳥谷、田守の5人、今回は一人ポッチで来たのが山田康、吉江のお2人ということになり、総勢12名がOKタクシーVIPルームに集合、互いに奥様を紹介し、ジャンボタクシー2台に分乗、いざ出発。始めこそ奥様同士は殆ど初対面と言うこともあり、良家の奥様と言う立ち居振舞いであったがすぐに化けの皮ははがれ、その賑やかなこと。

第1回目と言うことで女性陣に敬意を払い、女性に人気のある小野小町の随心院や寧々様をまつる高台寺等を見て周り、夕闇迫る頃、高瀬川の一部を取りこんだ石庭をバックに京懐石で話の花を咲かせた。学生時代の悪行も話題にならず、今回集まったのは秀才のグループであったということで意見の一致を見た。

今後は毎年この様な小旅行を企画することとし、再会を約束して午後8時前に散会した。来年度の会合にはより多くの皆様の参加をお待ち致します。

(応物・昭和38年卒・応物三八会幹事)



情報工学科

情報工学科の近況

鳥生 隆



情報工学科の卒業生の皆様、初めまして。20年勤めた(株)富士通研究所を退職し、平成14年の4月に本学に着任いたしました。速いもので、1号館の講堂で児玉学長からおごそかに辞令を頂戴してから約1年半になります。奇しくも、着任当時工学研究科では大学院の再編が実施され、4専攻の体制になりました。学部の電気工学科、応用物理学科、情報工学科が一つの大学院専攻「電子情報系専攻」を構成しています。

最初の1年間は慣れない授業の準備に忙殺されておりましたが、その中で「新行財政改革」に伴う人員減、「大学改革基本方針の策定」、「産学官連携の推進」など、大学を取り巻く厳しい環境と、その状況での「改革」へ向けた熱い雰囲気を感じておりました。年度末には北村泰彦先生が関西学院

大学理工学部情報科学科に教授としてお移りになりました。残念に思う学生も多かったようです。

平成15年度になって学科主任を仰せつかり、就職のお世話も務めさせて頂きました。卒業生の皆様との繋がりがやその大切さを肌で感じた次第です。厳しい経済情勢を反映してか、就職が決まるのが例年より遅くなり、就職活動の途中で進学することに決めた学生もおりましたが、おかげ様で7月中には全員の内定を頂きました。依然、求人の数は多いものの、選考は非常に慎重に行われているようであり、就職指導の方法も見直す必要があると考えております。基本はいうまでもなく人材の育成であり、これまで以上に教育・指導に力を注ぐ所存であります。7月31日、8月1日にはオープンキャンパスで賑わい、8月末には大学院の入試が行われました。電子情報系では53名が合格し、そのうち、情報工学講座には19名が合格しております。

今日は10月30日。第53回銀杏祭が開かれています。昼の時

[P11左上へつづく]

間のパレードでは「六甲おろし」が演奏されていました。夕刻の今、焼そばを1パック買ってきて、それを食べながら原稿を書いています。若い人たちの未来が明るく輝くよう、教育研究に励む所存です。今後ともご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。(工学研究科教授兼情報工学科主任教授)

近況報告

前田 康孝



平成14年に修士課程を修了し、現在の会社に就職してから早や1年半が経ちました。社会人になってから時間の過ぎるのが非常に早くなったと感じています。

入社後の半年間の研修を終え現在の部署に配属されてからは、家電機器向けのソフトウェアの開発に携わってきました。

多くの制約の中で行わなければならないソフトウェア開発の難しさや、他の事業部や関連会社の方々と協力しながら開発を行っていくうえでの意思疎通の重要性を実感しています。

まだまだ、知らないことの連続で勉強をかせない毎日ですが、いろいろなことに挑戦し、頑張っていきたいと思えます。(情報・平成12年卒・松下電器産業㈱)

《ホームページの開設》

この度、当工学部同窓会のホームページが、下記のように、「大阪市立大学同窓会ネット」上に開設されます。ご活用下さい。

- ①開設時期：2004年1月上旬(予定)
- ②アドレス：<http://www.osaka-cu.net/kougakubu/>
- ③更新間隔：1ヶ月(予定)



生物応用化学科

生物応用化学科の近況

玉垣 誠三



卒業生の皆様、お元気で活躍のことと存じます。前回私が近況報告したのが早5年前。光陰に閑守なし。20代は人に使われ、30-40代は先頭に立ち、50代は人を使い、60代は静かに去るのが、社会的にも生物的にも無理がないように思います。学問に王道なしとか、命長ければ恥多し、などと諺に言います。

さて、本学科は誕生して14年目を迎えました。企業寿命30年説を本学科に適用すると壮年に相当する働き盛りで評価が定まる時期です。先達が起こした学科を一層充実させたく、教員一同14人粉骨砕心、教育・研究に尽力しています。教員メンバーは昨年と変わりません。念のためお知らせしますと、生物工業化学：井上英夫、笠井佐夫、北村昌也；生物化学工学：大嶋寛、東雅之、五十嵐幸一；生体機能化学：玉垣誠三、長崎健、東秀紀；生体材料工学：山内清、田辺利住、立花亮；生物情報工学：荻野健治、立花太郎の面々です。学部推薦入学、外国人特別選抜入学者を含めて1回生は合計26名(内女子6名)、2回生22名(女子8名)、3回生27名(5名)、4回生22名(7名)。有為な人材を育成すべく、独自に教育プログラム委員会を立ち上げ、教育目標やカリキュラムの全面的見直しを行うとともに、JABEE申請に向けて準備を進めています。 [右段へつづく]

大学院では、昨年4月に生物応用化学専攻と応用化学専攻とを化学生物系専攻に統合したことは、ご存じの通りです。講義や入試業務等は化学生物系専攻として実施し、滑り出しは順調です。当専攻でも推薦や留学生特別入学、社会人博士コース等利用し易い入学選抜制度を取り入れて有為な院生を確保し、様々な分野をリードできる若い研究者の育成に努めています。その甲斐あってか進学・就職は全員決定あるいは内定致しました。3月にsars流行、それも止まぬうちにイラク戦争勃発、十勝沖地震が記憶に新しい。未だデフレ不況克服の兆しはないが、若者には前向きであって欲しいと思う。ただ、ヒトゲノム解読の完了は我々にとってgood newsでした。

ところで、生応化の卒業生の間に同窓会設立が話題のほびています。生物は自分に欠けているものを発見して、その埋め合わせに群れることを発明したと言う。お互いの交流を深めるためにも悪い話ではないと思ひ、区切りのいい頃を見計らって同窓会を開催したく、準備を始めています。この件に関しご意見とご協力をお願いしたいと思っています。生応化教員一同、一層鋭意努力致します。今後とも皆様のご支援の程よろしくお願い申し上げます。

皆様のご活躍とご健康をお祈りいたします。

(工学研究科化学生物系専攻及び生物応用化学科主任教授)

クラス会について

中西 猛



私は現在、大学に勤務しておりますが、研究室の学生達を見ていると、半年前に修了したばかりであるのに、学生時代を懐かしく感じます。大学を修了するまでは、同期生の集まりといったものには必ず参加していたのですが、私自身が関西地方を離れてしまったため、なかなか参加できないのは残念なことです。現在でも関西在住の方を中心に同期生で飲み会などを催しています。私も含めて、遠距離の方が多いため、ゴールデンウィーク、お盆休み、正月休

みなどの長期休暇に、スケジュールの合いそうな人達で集まるといった気軽なものです。皆、様々な分野で活躍しているため、色々な話を聞くことができるのも楽しみです、最後にはやはり昔話で盛り上がります。

学生時代をともに過ごした仲間というのは本当に良いものだと思っただけで今だからこそ感じるのでしょうか。これから先、皆、自分の仕事や家庭のことで忙しく、疎遠になりがちだと思います。お互いにメールのやりとりくらいは続けて、10年後、20年後も、気軽に集まれるような関係でありたいと考えています。この文章をお読みの皆さんも、昔の仲間へ声を掛けられてみてはいかがでしょうか？

(生応化・平成10年卒・東北大学大学院工学研究科博士研究員)

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

橋本 敏



学科開設から早五年と半年が経ちました。第一期生15名が今年3月に卒業し、うち3名が実社会に巣立ち、12名が大学院工学研究科機械物理系専攻に進学いたしました。また来年3月の卒業予定者は26名を数え、17名が機械物理系専攻に進学、1名が他大学大学院、8名が実社会で活躍されようとしております。

さて、本年3月末日をもって福田武人教授が定年退職されました。先生は知的材料工学科の設立に尽力され、また平成12年4月から二か年間工学部長・工学研究科長をつとめられました。複合材料に情報と制御の概念を組み入れた知的な複合材料の構造とその設計に関する研究は国内外から注目され、NEDO開発プロジェクト「知的材料・構造システムの研究」では本学を研究拠点とするリーダーの役割を果たされました。現在、本年10月1日に発足した大阪市立大学新産業創生研究センターの初代のセンター長としてそのご活躍が期待されております。

材料知能工学分野の後任教授として産業技術総合研究所の産学官連携推進部門産学連携コーディネーター(兼)地域連携室長の澤田吉裕氏をお迎えし、10月1日赴任されました。先生は姫路工業大学を卒業後、直ちに旧工業技術院大阪工業技術試験所に入所され、世界に先駆けて炭素繊維の構造とその力学的性質についての研究を進めてこられました。また炭素繊維強化複合材料、炭素繊維表面処理やC/Cコンポジットの超高温物性、Li電池の負極用炭素材料の開発研究などでも主導的役割を任じてこられました。当分野が長年培ってきた複合材料研究と相まって、先生の長年の研究所でのご経験が生かされ、当分野の新たなステージの開かれんことが望まされております。

[右段へつづく]

最後になりましたが来年度は当学科の第一期生が前期博士課程(修士課程)を修了いたします。同窓会会員皆様への暖かいご支援をお願いし、また卒業生の皆様方のますますのご活躍とご多幸を祈念いたします。

(工学研究科教授兼知的材料工学科主任教授)

初クラス会

児玉 豊彦



私たち知的材料工学科1期生は今年の春に卒業したばかりです。1期生16人のうち13人が大学院に進学し、3人が就職しました。私は進学組で、同じく院生になったメンバーとはいつも会っていますし、就職したメンバーともメールでよく連絡をとりあっているため、クラス会を

考えたことはありませんでした。

しかし、就職して近畿を離れたメンバーがゴールデンウィークに遊びに来るといっているので、卒業後たった1ヵ月でクラス会が開かれました。彼らに会うと、大学を卒業して1ヵ月しか経っていないのにとても懐かしく感じました。社会人として自分の名刺を持ち、今どのような仕事をしているかなどを話す彼らは、どこが変わったかはっきり分かりませんが、大学生の頃とは違っていました。大学生の時と同じ研究室にいて何も変わっていない私は、私より一足先に社会に出た彼らをうらやましく思いました。

私が大学院を卒業して就職するのはまだ1年先のことでありますが、それともたった1年先でしょうか、今もそして就職してからもマイペースで一歩一歩、ゆっくりでも確実に前進し、彼らに負けぬよう努力していきたいと思っております。

(知的材料・平成15年卒・前期博士課程機械物理系専攻1回生)

環境都市工学科の近況

山田 優



今年は、3月に本学科1期生14名が卒業し、うち3名が民間企業に就職、10名が大学院に進学しました。毎年、最も学業優秀な学生を学科で表彰することになり、小島和佳子君に学士号授与とともに第1期生優秀学生賞を贈りました。

また、これを機に環境都市工学科同窓会も発足させました。

このように学科にとって記念すべき年でしたが、大変悲しいことに、1月に三木信博教授が逝去されました。先生は、1990年、本学に図学講座教授として赴任され、いま全国的にも注目されている特色ある図形科学教育システムを構築されました。1999年、本学科開設により地域環境計画分野の教授に就任され、4人の教授の中でも最も若く、学科の将来は先生に委ねられていました。奇しくも、葬儀が行われた1月31日は、工学研究科が産学官連携をめざして研究成果を社会に発信する、いわば出前研究室、オープン・ラボラトリーの第1回開催日で、「大阪熱冷まし研究」と題し、三木研究室の最近の成果を披露する場でありました。残念でなりません。

そういうことで、地域環境計画分野では、現在、教授が不在になっていますが、西岡講師、鍋島助手、そして学生達がよく頑張って教育研究活動が続けています。また、来年4月には公募により採用が内定している新しい教授が赴任されることになっています。

そのほか、環境都市計画分野で人事がありました。土井幸平教授が3月に定年退職され、東京の大東文化大学環境創造学部教授になられました。その後任として、赤崎弘平助教授が教授に昇任しました。そして、10月に、(株)UFJ総合研究所都市・地域再生マネジメント室主任研究員を勤められていた嘉名光市氏(35歳)を講師として採用しました。

なお、来年3月には、環境水域工学分野の小田一紀教授が定年退職されます。現在、その補充人事を進めています。

[右段上へつづく]

学科開設5年目、来年3月卒業の2期生18名、うち8名の就職はお陰様で内定しましたが、来年度は、学部卒業生に加え、大学院に進学した本学科卒業の学生が前期課程を修了します。本学科には、期待したとおり、意欲ある有望な学生が集まってきていますが、彼らの希望する路に進ませてこそ、喜ぶことができると思っています。よろしくお願いします。

(工学研究科教授兼環境都市工学科主任教授)

環境都市1期生の学生生活

上田 淳也



環境都市工学科を卒業して早半年が経ちました。1期生は17人と人数が少なかったこともあり、皆仲良くやっていたと思います。環境都市工学科のカリキュラムは2回生に必修の授業が集中しており、苦しい毎日でした。そのような中、あまり学校に来ていない友達がいると、

「あいつ今頃何してんやろ〜なあ…、夜逃げでもしたんちゃう？」と馬鹿を言い合っていたことを覚えています。(←さ〇か君は皆の人気者でした!!) 3回生になると演習室(新学科なので真っさら)が与えられ、自分たちの基地のよううれしくなり、授業がない時間も皆で集まって雑談をしたり、寝たり、何もしなかったりと、演習室はたくさんの思い出が詰まった場所となりました。自分で言うのも何ですが、何もせず皆で集まっている様子は猿が群れをなしているような感じでした。

現在は10人が大学院に進学し、それぞれ研究に励んでいる毎日です。社会に出て活躍している卒業生の皆さんはいかがお過ごしでしょうか?

最後になりましたが、この場をお借りしまして1期生を4年間指導して下さった環境都市工学科の先生方に御礼を申し上げます。

(環都・平成15年卒・工学研究科都市系専攻 前博1回生)

★★ 大阪市立大学同窓会連合会だより ★★

(1) 大阪市立大学ホームカミングデーの開催：

ホームカミングデーは、各学部同窓生の全学的な親睦・交流の促進と、同窓生・大学間のより強い結び付きを育てるために、2001年に始められた全学的な集いです。

・来年は、母校の銀杏祭期間中の10月30日(土)に、杉本キャンパスで開催の予定です。

(2) 大阪市立大学全学同窓会設立への取り組み：

「学部同窓会の一本化」は長年の懸案事項でしたが、大阪市立大学でも平成17年の独立法人化を検討中であり、全学同窓会の早期設立が重要になってきました。

同窓会連合会の統一小委員会では、「現学部同窓会は当面従来通り活動し、新しい全学的同窓会“大阪市立大学学友会(仮称)”を創設する案」の検討が重ねられています。

事務局年報 (2002・12～2003・11)

2002年 (平成14年)

12月 : 2002年2回目の会費督促状を発送(2日)。会報18号の発送(18日)。

2003年 (平成15年)

1月 : 新保・志野両監事の会計監査・次期副会長(建築推薦)候補が決定(14日)。第15期第6回理事会にて、第14回評議員会の議案を検討・決定(17日)。市大広報第49号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(20日)。

2月 : 次期会長候補(土木推薦)が決定(3日)。新阪急ビルスカイルームにて第14回評議員会を開催、第15期2年目(2002年度)の経過と収支決算報告、第16期1年目(2003年度)の新理事会役員・事業計画・予算を決定。その後、同窓懇親パーティ2003を開催(18日)。

3月 : 第14回評議員会欠席者に報告書類及び不明同期生リストを送付(3日)。2003年度新入生への当会の案内・会則・会費払込み要請書等の配布を学務係に依頼(4日)。同窓会連合会の統一小委員会発足(6日)。卒業・修了準会員宛文書の配布を各学科に依頼。午前には大阪城ホールで全校卒業式、午後には工学部大講義室での工学部・工学研究科送別式に湊会長、中田・貴志両副会長及び理事有志が出席。式後に会長・副会長・両小委員で連合会統一小委員会での議論について意見交換(25日)。

4月 : 同窓会連合会の役員・小委員会合同会議で統一問題の意見交換(3日)。中之島の国際会議場にて2003年度入学式(7日)。2003年版会員名簿の製作を(株)廣済堂に委託(15日)。

5月 : 同窓会統一小委員会(8日)。会員登録データの一次調査を開始(20日)。第112回市大ボート祭にアドバルーンの掲揚で協賛(31、6/1日)。

6月 : 同窓会統一小委員会(5日)。第16期第1回理事会で、当年度事業計画を検討、文化交流センター談話室管理費の分担を了承(11日)。第1回理事会報告を発送、市大広報第50号を学外の理事・評議員・大学院生評議員に配布(24日)。

7月 : 名簿編集委員会で名簿予約数を検討し計画通の発行を確認、3役会(会長・副会長・事務局担当理事)に提案(2日)。同窓会統一小委員会(3日)。3役会で編集委員会の提案を検討し発行を決定(7日)。第1回会費督促状を発行(18日)。同窓会統一小委員会(31日)。

8月 : オープンキャンパス(1日)。工学部学術情報交流センター夏期休館(13～16日)。ホームカミングデー企画委員会(18日)。前副会長 故藤澤政夫氏告別式に会長・理事有志が参列(20日)。

9月 : 同窓会統一小委員会(4日)。協賛広告の依頼状を発送(5日)。ホームカミングデー企画委員会(17日)。定年恩師に会報第19号への寄稿を依頼、市大広報第51号を学外の理事・評議員・大学院生評議員に配布(30日)。

10月 : ホームカミングデー企画委員会、同窓会統一小委員会(2日)。会長・名誉会長他に会報第19号原稿の依頼状を発送(1日)。第2回ホームカミングデー案内状を近畿2府4県在住者に発送(7日)。同窓会統一小委員会が児玉学長と会見(15日)。第2回理事会で「第15回評議員会・第5回キャンパス交流会」の日時・講演者案等を決定(23日)。

11月 : 第2回ホームカミングデー開催(1日)。同窓会統一小委員会(6日)。ホームカミングデー企画委員会(17日)。

(1) 第15期第2年度 (2002年1月～12月) 収支決算報告

(イ) 経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	6,120,000	会 議 費	218,354
預金利息	4,245	行 事 費	303,380
雑 収 入	10,000	会 報	1,723,990
前期繰越	8,276,144	会 員 名 簿	132,300
		協 賛 費	404,273
		渉 外 費	48,500
		通 信 費	222,529
		事 務 局 費	2,655,057
		次 期 繰 越	8,702,006
合 計	14,410,389	合 計	14,410,389

(ロ) 借貸対照表(2002年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	2,708,554	累計剰余金	8,276,144
普通預金	5,299,716	当年剰余金	425,862
定期預金	47,240,690	特別基金	71,490,350
有価証券	24,943,396		
合 計	80,192,356	合 計	80,192,356

(2) 第16期第1年度 (2003年1月～12月) 理事会役員

会 長 : 湊 勝比古(土41)			
副会長 : 中田 忠(機26)	山口南海夫(電44)	貴志 義昭(建41)	
理 事 : 副松 晃(機26)	下田 隆二(機29)	人見 宗男(機31)	
	南 斎 征夫(機39)	東 恒雄(機41)	宮本 万功(機43)
	笠上 文男(機50)	栗政 幸一(電31)	建部 涉(電35)
	矢野 孟彦(電36)	行藤 三男(電36)	南 敏行(電45)
	串坂 徹(電55)	村治 雅文(電62)	津田 恒次(化29)
	廣岡 孝一(化29)	福山 泰夫(化32)	山田文一郎(化修40)
	三浦 洋三(化42)	大嶋 寛(化49)	坂内 幾男(建24)
	大東 清四(建25)	都築 周(建29)	多湖 進(建34)
	坂 壽二(建42)	赤崎 弘平(建45)	山道 正男(建45)
	谷口 徹朗(建59)	植木 正富(土24)	井上 保(土26)
	吉村 椋(土32)	園田恵一郎(土36)	伊藤 和雄(土38)
	小林 治俊(土45)	日野 泰雄(土50)	大島 昭彦(土55)
	繁澤 孝(物32)	川上 一夫(物35)	田守 芳勝(物38)
	増岡 俊夫(物38)	和倉 慎治(物45)	宇佐見 照夫(物46)
監 事 : 新保 市弘(電35)	志野 太一(物40)		

(3) 第16期第1年度 (2003年1月～12月) 事業計画

- ①名簿2003年版(第10号)、会報第19号の12月上旬発行。
- ②工学部・全市大行事及び事業への協力。
- ③会員相互の横断的交流・親睦の促進。
- ④第15回評議員会の開催。
- ⑤市大ホームページに当会ページを開設。

(4) 第16期第1年度経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会員	6,000,000	会 議 費	220,000
預金利息	4,000	行 事 費	300,000
雑 収 入	18,000	会 報	1,730,000
前期繰越	8,702,006	会 員 名 簿	1,250,000
		協 賛 費	405,000
		渉 外 費	50,000
		通 信 費	225,000
		事 務 局 費	2,775,000
		次 期 繰 越	7,769,006
合 計	14,724,006	合 計	14,724,006

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2003.10.1.現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
野呂 奉弘 2663	鈴木 裕 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	小林 治俊 2173	中山 正昭 2739
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	澤井圭二郎 2694	木内 龍彦 2706	角掛 久雄 2723	溝口 幸司 2174
伊與田浩志 2963	武智 誠次 2677	五百井正樹 2977	谷口 徹郎 2707	北田 俊行 2734	金 大貴 3087
東 恒雄 2666	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	坂 壽二 2708	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
加藤 健司 2665	重田 和夫 2761	三浦 洋三 2798	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
脇本 辰郎 2965	青笹 正夫 2680	圓藤紀代司 2697	那谷晴一郎 3076	高田 直俊 2724	細田 誠 2742
南齋 征夫 2667	草開 稔 2681	米澤 義朗 2770	西岡 利晃 2992	東田 淳 2725	曾我部 伸 2740
吉岡 真弥 2967	田中 健司 2975	辻 幸一 3080	梅宮 典子 2710	大島 昭彦 2996	菜嶋 茂喜 3089
佐藤 嘉洋 2670	松下 賢二 2792	米谷 紀嗣 2984	大倉 良司 2711	日野 泰雄 2730	増岡 俊夫 2879
川上 洋司 2668	中川 吉郎 2878	山田文一郎 2797	杉山 茂一 2176	内田 敬 3099	小林 中 3095
脇坂 知行 2671	宮崎 大介 2877	松本 章一 2981	藤本 益美 2989	吉田 長裕 2731	中村 勝弘 2768
龍山 武 2672	辻本 浩章 2685		徳尾野 徹 2713	角野 昇八 3078	寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	村治 雅文 2976		中谷 礼仁 2714	鬼頭 宏明 3050	加藤 岳生 2904
				麓 隆行 2780	
情報工学科	生物応用科学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	澤田 吉裕 2660	赤崎 弘平 2717	(応用数学)	学務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	逢坂 勝彦 2962	嘉名 光市 2715	多羅間茂雄 2669	同 2651
鳥生 隆 2684	北村 昌也 3091	高坂 達郎 2182	中村 仁 2716	谷村 省吾 2747	学情サプセンター 2657
平井 誠 2683	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	西岡 真稔 2718	鈴木 広隆 2712	
中島 重義 3096	東 雅之 3092	山崎 友裕 2181	鍋島美奈子 2719	(機械工作室)	
辰巳 昭治 2688	五十嵐幸一 2699	大島 信夫 2961	小田 一紀 2732	若林三記夫 2969	
藤原植賀人 2689	玉垣 誠三 2695	橋本 敏 2673	矢持 進 2175		
岡 育生 2779	長崎 健 2696	A・ビノグラドフ 3049	重松 孝昌 2733		
阿多 信吾 2191	東 秀紀 2168	兼子 佳久 2179	山田 優 2727		
村田 正 2795	山内 清 2703	森 雄造 2743	貫上 佳則 2728		
杉山 久佳 2796	田辺 利住 3094	金崎 順一 2741	西 元央 3048		
辻岡 哲夫 2192	立花 亮 2702	近藤 孝文 2194			
	荻野 健治 2799				
	立花 太郎 2167				

第15回評議員会のお知らせ

前略 評議員各位には当会のために、色々のご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、第15回評議員会(平成16年評議員会)を、下記の通り開催致します。ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようお願い致します。

記

日 時：2004年(平成16年) 2月21日(土)
午後2時～2時50分
会 場：大阪市立大学学術情報総合センター
文化交流室(1階)

なお、後日、案内状・返信ハガキをお送り致しますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

編集後記

大阪市大でも平成17年4月からの法人化に向けて議論されており、市大同窓会連合会では、母校の法人化に対応するため、新しい全学同窓会の創設が検討されています。

本号の表紙絵は、壱口良二(土木・昭和22年卒)氏からご投稿頂いた作品です。次号以降への表紙絵のご応募を宜しく。

クラス(同期会)便りは若干予定を変え、知的材料工学科および環境都市工学科を本年卒業の一期生にも投稿して頂きました。

この3月ご定年の先生からは、福田武人(知的材料工学科)と土井幸平(環境都市工学科)両先生にご寄稿頂きました。

裏表紙には、来年2月21日(土)に杉本キャンパスで開催されます「工学部同窓会の集い—第5回キャンパス交流会—」の案内を掲載しました。この機会に、キャンパスの散策・見学は如何ですか。また、その懇親会では、ミニクラス会(同期会)や、ミニ職域会を兼ねた「ミニ○○会参加」を歓迎。

では、良いお年をお迎え下さい。

(N. Y. 生)

編集委員

○山口南海夫(電気・昭和44年卒) 南齋征夫(機械・昭和39年卒)
△大嶋 寛(応化・昭和49年卒) 村治雅文(電気・昭和62年卒)
谷口 徹明(建築・昭和59年卒) 大島昭彦(土木・昭和55年卒)
増岡 俊夫(応物・昭和38年卒) 人見宗男(機械・昭和31年卒)
(但し、○:委員長、△:副委員長)

“工学部同窓会の集い” —第5回キャンパス交流会—

来春、“工学部同窓会の集い—第5回キャンパス交流会—”を下記の通り開催いたします。今回も、ご退職の恩師にもご臨席頂くようお願いする予定です。

市大での同期生や、職域の同窓生等をお誘い合わせの上、是非ご出席下さい。特に、ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねての参加も大歓迎です。

記

★日 時：2004年2月21日(土曜日) 午後3時10分～午後6時30分

★講演会：時間＝午後3時10分～午後4時40分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター 文化交流室(1階)

1) “大阪市立大学における産学連携”

大阪市立大学後援会産学連携推進室長・名誉教授 西村 仁 先生

2) “物質生産の魔術師「酵素」のお話”

大阪市立大学元大学院理学研究科教授・名誉教授 南浦 能至 先生

★懇親会：時間＝午後5時00分～午後6時30分

会場＝大阪市立大学第2学生ホール(時計台棟の東隣)

会費＝3000円(当日受付にて徴収致します)

参加申込：1) 連絡事項：①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、

④ご住所(連絡先)、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠

2) 期 日：2004年2月10日(火曜日)

3) 方 法：ハガキ、ファックスまたは、e-mail でお願ひします。

申 込 先：大阪市立大学工学部同窓会事務局

〒558-8585 住吉区杉本3-3-138

FAX(06)6605-2769、TEL(06)6607-8373

e-mail [dousokai@office.eng.osaka-cu.ac.jp]

工学部同窓会のホームページを開設！

アドレス等は11頁をご参照下さい。